白門ライオンズ会報

Quarterly of Lions

2017.7-8-9 No.9

東京白門ライオンズクラブ http://hakumon-lions.org/

中央大学

東京白門ライオンズクラブ

TOKYO HAKUMON LIONS CLUB

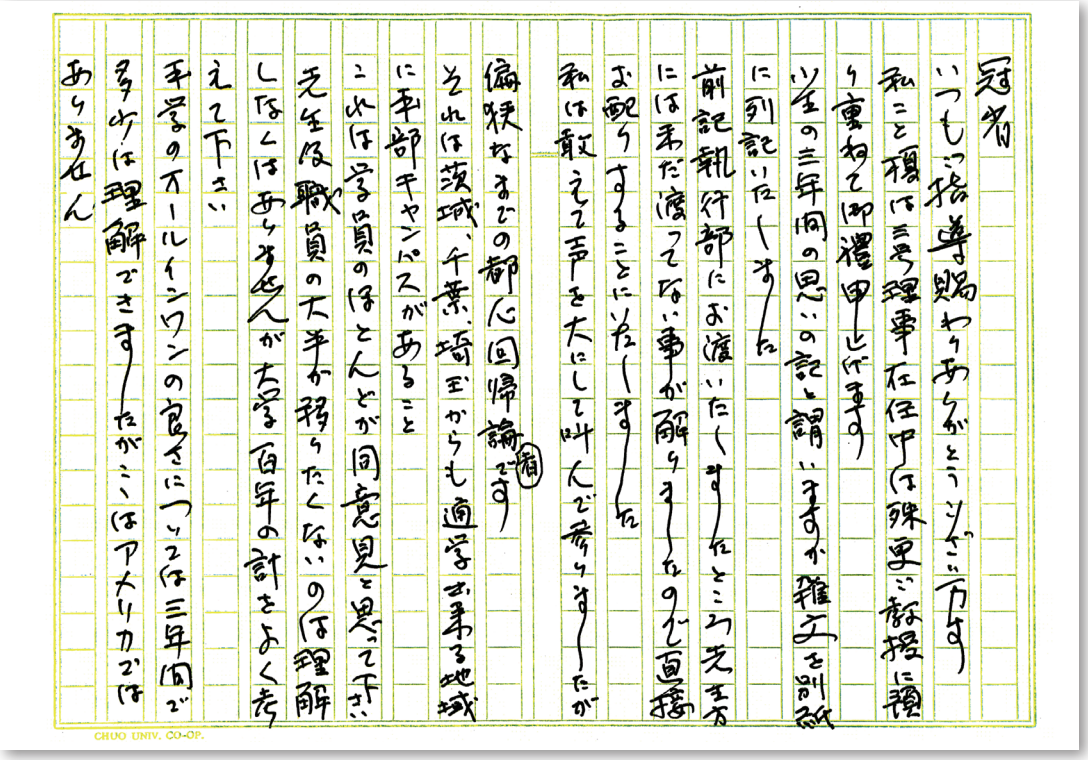
寄稿

理事会に対する提言

中央大学 前理事　榎　秀郎

今年5月末まで理事として過した1期（3年間）。超スピードで動いている今の社会の中であまりにも鈍感の一部の役員と教職員の群。中大の良き時代の知の資産を喰いつぶしている事に忸怩たる思いと憤りを思うまま綴った駄文である。ご一読ください。

冠省



冠省

いつもご指導賜わりありがとうございます

私こと榎は三期理事在任中（殊更に教授に頼り事わって御禮申上げます）

以来の三年間の思いの記と謂いますが雑文を別紙に列記いたします

前記報行部にお渡いたしますところ先生方には未だ渡ってない事が解りましたので直接お配りすることにいたします

私は敢えて声を大にして叫んで参りましたが

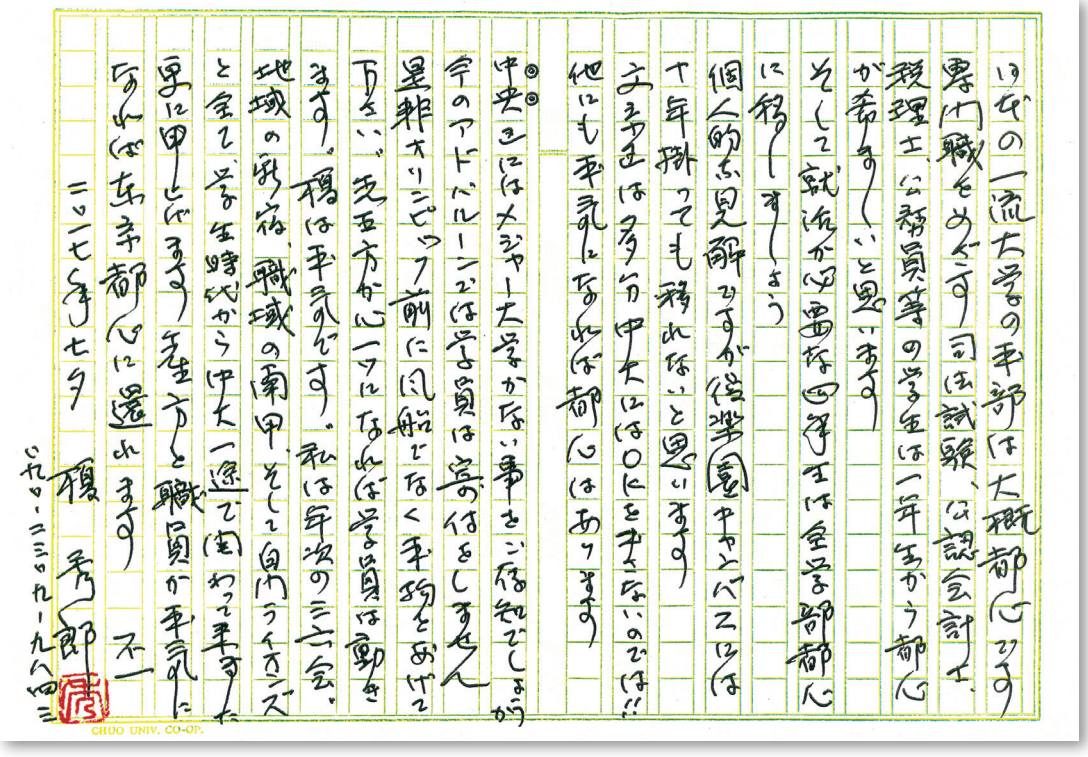
偏狭なまでの都心回帰論（補）です

それは茨城、千葉、埼玉からも通学お来る地域に本部キャンパスがあること

これは学員のほとんどが同意見と思って下さい

先生及職員の大半が移りたくないのは理解しなくはありませんが大学百年の計をよく考えて下さい

本学のオールインワンの良さについては三年間で多少は理解できましたがこゝはアメリカではありません



いなの一流大学の本部は大概都心です

専門職をめざす司法試験、公認会計士、税理士、公務員等の学生は一年生から都心が希すべきと思います

そして就活が必要な四年生は全学部都心に移るべきでしょう

個人的な見解ですが偏差値キャンパスは十年掛っても移れないと思います

文系は多分中大は0にを出さないのでは!!

他にも本気になれば都心はあります

中央にはメジャー大学がない事をご存知でしょうが今のアドバルーンでは学員は来ないでしょう

星野オリンピック前に泥船でなく本物をあげて下さい、先生方が心一つになれば学員は動きます

榎は本気です、私は年次の三十会、地域の秋谷、職域の南甲、そして自治ライオンズと全て学生時代から中大一途で関わって来ました

東に甲とびます先生方と職員が本気になれば東京都心に選れます　不一

二〇一七年七月　榎　秀郎

いれい・ニニのれーれんのニ

序

1．理事に就任した初日…ご挨拶は何を話そうか…3号理事の誰一人として挨拶の要請はなく、新理事会がスタートした。

又、事前に何の連絡も無かったが机上にはどんな名刺が置いてあるんだろう!!　新理事の名刺はなし。

当時の総務部長に問い合わせたところ、必要なら作りますけど。私は言葉が見つからなかった。

幹部職員でさえ3号理事の事は何も考えていない。これまでの気風が1日目に露見!!

更に驚いたのは、執行部の自分達の名刺は当然あるけれど、3号理事の名刺が無い事に気づいたかどうか解らず必要とも感じてない。この人達が揃って大学の経営の中核を担う。先が思い遣られた。

職員幹部が江戸の末期症状なら、執行部の主導で大学を良い方向に展開させる。これが新しく学校経営を任された人達の使命ではないのか。

2．私は理事に就任して数ヶ月後、本学には多摩・後楽園共にカフェもコンビニもないから、スタバ、タリーズ、ドトール等先ず学生が必要とし、喜ぶ事を考えて下さいと提案した。

ところが2年経っても、今検討中ですとか、途中の経過もなく、何の回答もない。大概の事は聞くだけで回答があった試しがない。間もなく任期も終るこの2月になり、漸く回答らしいものが返って来た。

その手続きたるや江戸幕府末期の様である。職員方が緩慢なら執行部が迅速化を図る働きかけと努力をするのが役目と思うが…怠慢の謗りは免れない。

然も私が提案した2年前より時の流れのスピードが速く、今はスタバからロクシタンの時代に変わりつつある。追いかけた時には先へ行っている者がいる。今の本学執行部を象徴しているかの様。

幻の中長期計画

私は当初から、こんな東京でも田舎の様な多摩キャンパス内に新学部を創設しても生徒は来たがらない、何百億円も掛けるのは無駄金だと主張して来た。更にここには100年経っても中央線も山手線も来ない。

ご存知だろうが、千代田・中央・港・新宿の順に都心で、文京・渋谷・目黒・世田谷、続いて杉並・中野くらいが東京に住む人に人気があるところである。更に解り易く云うと、山手線の池袋から御徒町まではマイナーである。因みに私の本籍は新宿歌舞伎町である。

ローアンドローの唄い文句の法学部だけ、空想にしても後十年後くらいに移転可能だとしても無意味である。

然も今の執行部は後楽園キャンパスを本気で本部機構にという気概がまるで見えない。

一度でも理事長、学長はじめ執行部全員が文京区長と直接会って容積率UPについて相談又はお願いに行ったのだろうか。

真剣味がまるで伝わって来ない。

3号理事が理事会で質問しても、執行部担当者から具体的な回答はなし。執行部は3年間一体何をしていのか。3号理事のほとんどは呆れている。

現在の執行部の方々には、大学改革への期待も希望ももてない事が判明した。

然も、後楽園キャンパスをと風船をあげたものの、当の理工学部の幹部の方々の話を聞くと、一歩足りともこちらは受けないヨ、とのこと。

少なくとも全学部の4年生だけでも東京に都心回帰を実現する施策を立てない限り、学員は寄付も協力もしません。

大変申し上げにくい事だが、教職員の大半の方は多摩キャンパスの近くに居住している。これは通勤の至便を考慮すれば当然かも知れない。だが、大学50年、100年の計を考察した場合、都心に還るは必然。ここに本部がある限り、良い学生も、優秀な先生も来たがらない。従って大学の将来はない。

どんな事をしても東京に戻ると、新執行部の元、確たる決意を以って、学員、教職員が中大の将来の為に叡知を決集する時である。

私立大学は本来ドネーション（寄付行為）で成り立っている。今在る財政の中で中長期計画を立てても、日本一給与の高い本学には井戸の中での予算組しか生まれない。

今こそ国等から東京都心の新たな土地の購入を模索し、実現性のある施策を発表すれば、OBはじめ心ある企業、社会の人達の共感を呼び、その目的の為、寄付をするだろう。

それには、今までのこれは出来ないヨのマイナス志向を脱却し、どうしたら可能かのむしろ空想に近いくらいの発想で、多摩に捨てる財源を東京都心へという白紙撤回を提言する。

例えば世界的な大学の会議場兼世界の音楽家の集まるホールの建設等が可能な都心。

私の幻計画

卒業生は、自分が死んでも母校の中に埋葬される。有休地の中に、又都心に戻った残地の中に白門メモリアルパークを創って、墓地の権利として寄付をお願いし、その原資を都心の土地代金に充当する。1人100万円の墓地代だと5万人で500億円。返済しない資金が集り、OBは只の寄付では無くなる。

私は36才の時、貸ビルを創って、その時乗った入口の向い側から降りるエレベーターにして欲しいと依頼したら、そんなエレベーターは100年経っても出来ないと嗤われた。私はその後50年もすると車が空を飛ぶ時代が来るヨとも伝えた。又嗤われた。今出来そうもない夢を実現させる大学にしよう。

又、新都心キャンパスには社会人向けのフリータイムの学部創設を設置してはどうか。

今の通教を「今こそ法学部」とかビックリする様な名称変更して多角的に入学者を集める様にしたいものである。

大学の組織の改組についての小提言

私は小さな高校の理事長の体験しかないが、例えば各学部の共通事項については、事務機構を一つに簡素化出来ないものか。

更に以前から提案した事だが、語学・体育に関しては学部の枠をはずす。他大学では既に行っていると聞く。

本学では、他大学が遣った事さえ追いかけもしない。先例がない、慣例がない等、これからは他大学でまだやった事のない事を先掛ける事をしないと益々遅れを取る。

これまでのお役所的発想を全面的に廃止して、えッこんな事は出来ないということをやってみる大学でありたい。それを日本一高い人件費の証にして欲しい。

今の時世で、6年間も給与を見直せない執行部の怠慢は見逃すことの出来ない大罪であろう。

又、現執行部は曲りなりにも中長期計画というものを発表して、仮にも東京都心を中心に描いたのだから、本部機能を後楽園か駿河台に移して、中大本部は東京だと外に印象づける事が必要だ

ろう。
　更に受験者増の為には、札幌・仙台・大阪・広島・福岡等の主要都市に学員会と協力して事務所と人員を配置すべきであろう。
　これも明大では何年も前から行っていて、本学で言う学員総会を地方都市で開いている。その日の地方都市は明大一色とか。
　又、小さな事だがネットワーク課と学員会事務局とは共通項が多いので統合することにより、これも簡素化につながる。ホームカミングデーにも発信源が一本化される。

ついでにホームカミングデーについての一言

　これも理事に就任した年に提案した。ホームカミングデーに参加する者の大半は駿河台校舎の卒業生であり、多摩キャンパスをホームキャンパスとは思っていない。懐かしさよりも口惜しさのハケ口で足を運んで来るのである。せめて後楽園キャンパスでの開催とか、或いは東京ドームで開催してOB、教職員、全学生、そして入学させたい高校の先生、塾等もお呼びして、一大祭を企画してはどうか。更に白門と赤門の野球の試合をして阿部慎之助選手、亀井義行選手も参加して頂く。ドームの社長は学員でもあり、又テレビ朝日のCEOも学員なので、このイベントならメディアも黙っては居ないだろう。
　そう発言したが、いつも通り、未だ何の回答も無い執行部である。

スポーツ振興についての小提案

　箱根駅伝の無策、無計画についても執行部はあまり重く受け留めていない。
　私は駅伝の選手をアフリカだけでなく、ヨーロッパにも手を延ばし、白門が白人選手を走らせたとなれば、これだけでもニュースになると理事会で提案したが、執行部の一部から人種差別と一笑された。
　世界的視野に立って選手を集める努力をしてくださいの意が解らない経営陣である。
　2020年になって強化するのではなく、今でも遅いのに何も見えてない。
　50米屋内プールは今始めればあの池江璃花子選手を獲得できるかも。その経済効果は抜群である。然も中大の名声は上る。
　又、今、本学のアイスホッケーは全国の大学の中でも常に優勝を争うチームである。
　来年女子アイスホッケー部員を入学させれば、5年後の冬季のオリンピックに中大現役選手の誕生が可能ですと発言したが、いつも通り聞いただけで、何の反応も無かった…。
　他の大学がまだ行ってない事を先じて行う事が、勝利に結びつくのだという認識に乏しい。

駿河台記念館の有効利用について

　1階の食堂（レストラン）は19世紀の遺物かの様。食べ物が不味い、店内もセンスが無い、従業員は田舎のホテル並み（実は経営はホテル）。
　今どき喫煙室は不要である。正面に前近代的な椅子、テーブル。そこの無駄なスペースは生協があれば便利である。
　執行部も職員もあそこを有効活用する方法を考えた事があるのか。
　更に全館について学員が使うなら会議室の他、カラオケルーム、バー、麻雀、囲碁等の部屋利用。
　他の会社やセミナー講習会の為に活用するのではなく、大学の施設は学生、学員が優先して利用できる様考えるべきである。
　あの受付をみていると、やる気のない市役所である。多分大学は人任せであろう。

学員会の正常化について

　私は南甲倶楽部選出の副会長として2期目であるが、学員会から各支部の行事に派遣され挨拶する役目がある。
　私は1期目に学員会長選出の在り方の不自然さをある会で話をしたところ、貴方は各支部で会長批判の挨拶をしていると、今はどこの会にも派遣されていない。
　会長を選出するのに41人の選考委員の内、20人は副会長。誰が考えても不合理極まりない。
　この非常識を正常化するには、不規則な規則を改正しない限り、大学の将来に大きな暗い影を落としかねない。
　法人化か抜本的改革が急務である。

3号理事の役割

　理事会の5、6日前にその資料が各自に送付されて来る。更に不足分なのか当日配布される。審議内容の9割は流石法律の中大たる規則、規程、規定等の改訂である。
　私達3号理事はこれ等の単なる議場賛成要員なのか。
　私達3号理事の当初考えていたほとんどは、大学における諸問題を執行部から提議され、例えば、
　1 都心回帰について
　2 新学部増設について
　3 財政問題
　4 学員等寄付金募集
　5 教職員報酬問題
　6 入学志願者増員計画について
　7 スポーツ振興について
　これ等について答申され、規約改訂理事会とは別に、今月はこの問題について3号理事さんのご意見を伺いたい。その様な理事会を期待したものの、2回だけガス抜きの会議が開かれただけの記憶がある。
　更に、3号理事が理事会で知る事項のほとんどは各学部長は既に熟知している。
　後でえッ、先生方知らなかったんですか！？
　3号理事って何だろう。

結びに!!　今ならまだ間に合う中大復活劇

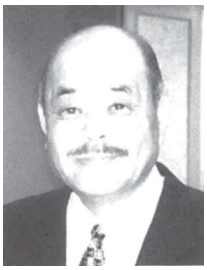
　私は今も私立三大学は中央、早稲田、慶応と思っている。
　何故なら“士”即ち、司法試験。公認会計士、税理士、司法書士、不動鑑定士、技術士、宅地建物取引士、行政書士等、又上級職試験、地方公務員等も含め、本学は全てにベスト3に入っている。他に上場企業役員、そして社会的名声のある人等、多くの白門人が輩出されている。
　只、惜しむことは大学の広報は余りにも拙劣でセンスも無い。又、それを主導するリーダーも居ない。
　もっとメディアを活用し、広報活動を活発化すべきである。
　私は地の利の割には本学の教員も一部の職員を除き、他大学より優秀であり、能力も努力もしていると思う。これは数字に現れている。
　これが都心にあって教学、学員、関係者が本気で心一つになって大学を盛り上げれば、日本一の中央大学は必ず誕生すると思っている。

寄稿

吉川和男Ｌへの弔辞

中央大学 前理事　榎　秀郎

東京セントポールLCは東京櫻門LCに次ぐ5大学LCの雄で、３７期になる名門クラブです。吉川和男Ｌは会長を２期務められ、多大なる成果をあげられ、我が白門LCも多くのご指導を賜りました。５大学旅行、５大学麻雀などでも何時もニコニコと卓を囲んでいました。白門LCで一番仲の良かった榎Ｌから弔辞がよせられましたので、掲載致します。



故　吉川 和男L

吉川先輩!! どうしてこんなに早く逝ってしまったんですか?!
今頃は黄泉の国で大好きなポン、チー、ロンを楽しんでいるかと思います
五大学ライオンズはまだ発展途上です
これからまだライオンズのイロハをご指導頂けるものと思っていた矢先、五大学生みの重鎮が目の前からいなくなり
私達はただ茫然とするばかりです
もうあの燻し銀のような語り口の吉川ふしも聞くことが出来ないんですね!!
なんて悲しいんでしょう
奥様!! こころゆくまで笑ってください、
その涙はやがて花「昇華」となって優しかったあの和男Ｌに届きます
吉川先輩!! 私達は五大学一丸となってあなたが築いた尊いライオンズへの篤い遺志をゆらず受継いでいく事をお約束いたします
どうぞみたま、安らかに、そして先輩の最も慈しんだあなたのご家族と五大学ライオンズクラブの将来をご照覧下さい、さようなら　吉川ライオン

二〇一九年九月十四日

東京白門ライオンズクラブ
第十代会長　榎　秀郎

セントポールライオンズクラブ
吉川和男Ｌに対する弔電

平成 29 年 7 月号

例会だより

行動する知性。
中央大学
東京白門ライオンズクラブ
TOKYO HAKUMON LIONS CLUB

2017年7月6日（木） 第一例会 於 銀座東武ホテル（桜）

左：廣澤前会長から田口新会長へ認証状の引継ぎ　中央：村田浩一Ｌ入会式
右：鈴木誠元会長による大学学員会情報

伊東Ｌ開会のゴング

田口丸の船出は美声の誉れ高い伊藤尚Ｌの司会進行、前幹事長伊東敏Ｌ開会のゴングで幕明けとなりました。昨年度務められた幹事長職の所感と富士登山のお話をされ、元気よくゴング！！　今日の来賓は伊東敏Ｌの教え子・矢崎直良様が2回目の例会訪問で入会を熟慮中です。メンバー一同心より入会をお待ちしています。

田口新会長挨拶は別掲（例会便り8号）しましたのでお読みください。

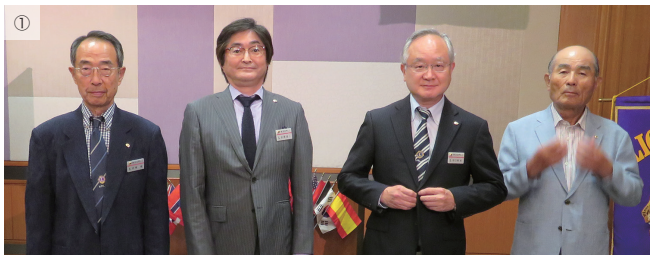
幸先よく村田浩一Ｌ（スポンサー田口彰紀Ｌ）の入会式が榎秀郎会員増強委員長の進行で行われ、一段と例会を盛り上げてくれました。因みに村田浩一Ｌはトロンボーンを嗜み、増尾知恵Ｌと同期で当クラブ最年少です。又一人ヤングパワーが増えて頼もしいかぎりですね。今日のお誕生会は伊東敏Ｌお一人でした。

「田口丸の船出を祝し」と、廣澤洋二前会長が声高らかなウィ・サーブをされ楽しい宴が始まりました。

鈴木誠Ｌによる大学･学員会報告は法科大学院撤退の波のテーマで話され、伊藤尚Ｌ、横井弘明Ｌ、村田浩一Ｌと世代の違う各氏のコメントも入りました。

新テールツイスターは石村博義Ｌ、大久保英彦Ｌ、出席率発表平山久子Ｌ、ドネーション発表は小平康代Ｌ、閉会のゴングは元会長境捷彦Ｌでした。

【Ｌ境 捷彦・記】



①タベルボタンの贈呈、新旧会長・幹事長　②来賓の平野秀輔氏を紹介する伊東敏Ｌ
③幹事長井原俊二Ｌ　④年度テーマー美声の誉れ高い伊藤尚Ｌ

⑤伊東Ｌ誕生お祝い　⑥廣澤前会長によるウィ・サーブ　⑦田口会長から村田Ｌへライオンズバッジの贈呈　⑧石村Ｌ、テールツイスター委嘱状授与
⑨井原Ｌ、幹事長委嘱状授与　⑩伊藤尚Ｌ、テーマー委嘱状授与

⑪テールツイスター大久保Ｌ・石村Ｌ　⑫出席率を発表する平山久子Ｌ　⑬⑭鈴木誠元会長による大学・学員会情報

2017年7月19日（水）　第二例会　於 銀座東武ホテル（B1）

左：キャビネット委員委嘱状授与。桜井L・増渕L・大久保L
右：白門ライオンズクラブの歌斉唱

左：中西美子第一副会長による開会のゴング　右：田口彰紀会長挨拶

今日は涼やかな洋装姿の中西美子第一副会長の開会のゴングで始まりました。来賓は野間口寛様（桜井俊宏Lスポンサーの弁護士さん）です。横井弘明Lの教え子で、又新しい輪が広がりそうですね！

田口彰紀会長挨拶は自己紹介です。「東京は江戸川の篠崎生まれ、東京育ちです。九段高校時代は70年安保騒動を体験し、中核派、革丸派活躍の時代背景の高校時代でしたが、ノンポリの私は読書に励んでいました。浅間山荘事件後騒乱は収束、受験勉強に邁進、紆余曲折のあと中央大学法学部に入学。司法試験受験の為浪人。しかしながら父、そして父の片腕の方が相次ぎ急逝、思い半ばで兄が社長の会社に入社し、現在に至っています」。また中大時代の河合信太郎先生（東京地検特捜部生みの親）の思い出について話されました。

ライオンズクラブ国際協会からの委嘱状授与は増渕秀一L（会員増強）、大久保英彦L（献血・検眼・献腎・骨髄移植）、櫻井俊宏L（薬物乱用防止）の各ライオンに委嘱状授与されました。業務多忙のところご活躍をお祈りいたします。

お誕生会は桜井俊宏L、茂岡幹弥L！！　田口会長からお中元（？）が右江さんに贈呈されました。いつもお世話になり有難うございます。

今日のテーマーは初登場フレッシュコンビの前半増尾知恵L、後半石黒敏子Lでとても良かったですね。

石黒LはPTA以来のマイクだそうです。

鈴木誠Lの大学・学員会報告は榎秀郎L（前中央大学理事）の都心展開にかかわる檄文の紹介、また拳法部今昔について百足健一Lのお話。井原俊二Lの理事会報告、横井弘明Lのドネーション発表、平山久子Lの出席率発表、そしてファインドネーションの発表は小平康代L。

今夜も「草のみどり」を声高らかに歌い、閉会のゴングへ。久しぶりに登場した榎秀郎Lでした。（参加人数28名）

【L境 捷彦・記】

▲ 小平康代Lのファインドネーション発表

①お誕生会　茂岡L（12日）・櫻井L（3日）　②テーマー増尾Lと後半テーマーの石黒L　③井原Lの中大ブランディング戦略、鈴木元会長の大学・学員会報告　④櫻井Lによる来賓野間口寛様のご紹介　⑤歓談中のメンバー　⑥百足Lによる日本拳法の現況報告　⑦横井弘明Lによるテールツイスター発表

平成 29 年 8 月号

例会だより

行動する知性。
中央大学
東京白門ライオンズクラブ
TOKYO HAKUMON LIONS CLUB

2017 年 8 月 19 日（土） 納涼例会　於 三浦屋屋形船（浅草橋～）

笑顔がいっぱいの屋形船！！　ノラコミ・スタッフ納涼例会報告

納涼例会スタート

楽しみにしていた納涼例会当日、屋形船・三浦屋の前の広場にはすでにお洒落をしたライオンさんたちの姿がありました。

全員乗り込むと、屋形船は間もなく出発。幹事長井原Lの開会の挨拶に始まり、田口会長のご挨拶、榎Lの来賓紹介など屋形船での例会進行は着々とこなされていき、気がつけば中山先生のウィ・サーブで歓談タイムのスタートとなりました。

上：船に乗り込みます　下：新婚の陳夫妻へ、田口会長からお祝いの贈呈

歓談タイム

屋形船初体験のL中川代理・菊地と野崎は、水面の近さや地上から見るのとはまた違う景色に感激しつつ、ちゃっかり美味しいお料理もいただきました。

途中、お台場が見えるところでデッキに上がれる時間がありましたね。これは是非と上がってみると、開放感あふれるライオンの方々の姿が見られたので、記念撮影。心無しか、街中よりも空気がきれいな気もしました。

左：楽しい撮影会！　右：陳ご夫妻、新婚旅行のようですね！

ハイ・クオリティなカラオケタイム

中山先生の「逢わずに愛して」に始まり、水津L夫婦のデュエット、岡田Lの「すみだ川」、茂岡Lの熱く感情のこもった「大空と大地の中で」。

岡田Lの圧倒的なパフォーマンスで絡まれた鈴木L・榎Lは戸惑いながらも嬉しそうでしたね！

スカイツリーが見えるスポットでのデッキタイムは、カラオケ人気のため外へ出る人が少数。この時は窓越しに、別の船からアイスキャンデーも買えたそうですよ。

左：境さんのお孫さん光希ちゃんと奥様　右：お台場の景色を楽しむため、一時停船

中山先生のプレゼント！

カラオケタイムの後は中山先生からのプレゼントタイム。直筆の書をご来賓の２名に贈呈。そして別の５枚を、全員の中からじゃんけんで勝ち抜いた人に贈呈となりました。

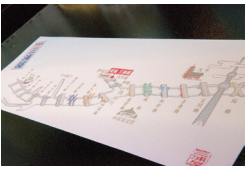
▲ 中山先生の書をめぐってじゃんけん大会

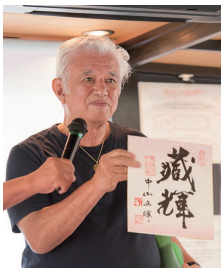
楽しい時間が過ぎるのは早いもので、鈴木Lの閉会のご挨拶、岡田Lと来賓のお嬢さんによるエールがあると、船は三浦屋に帰還。納涼例会はお開きとなりました。

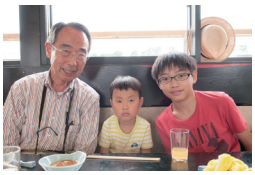
心配されていた天気も持ちこたえ（そのしばらく後は大荒れでしたね）、景色にお料理、素敵な歌声と、今回も楽しい時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

【L中川 順一代理　菊地・野崎】

守德




藏輝



平成 29 年 9 月号

例会だより

行動する知性。
中央大学
東京白門ライオンズクラブ
TOKYO HAKUMON LIONS CLUB

2017 年 9 月 6 日（水） 第一例会 於 銀座東武ホテル（芙蓉）

▲ お誕生日会 木村L・水津L・新藤L・河野L・久保L・石黒L、おめでとうございました！！ 伊藤尚L、笑顔で見守っています！

▲ 田口Lのご挨拶

開会に先立ち、去る8月急逝されました安田征史Lのご冥福を祈り全員で黙禱しました。

シャキッとした着物姿の第一副会長中西美子L開会のゴングで始まり、会長・田口彰紀Lの挨拶で例会の幕は開きました。

今日は中央大学OBで産経新聞社論説委員の大正大学客員教授・河合雅司先生の講演があり、河合先生の先輩にあたる来賓の中央大学職員・三浦康秀氏より紹介がありました。38年名古屋市生まれ、62年に中央大学を卒業、中央大学に奉職、数か月で退職、その後産経新聞社に入社し、現在に至り著書も多く、多彩な論陣を張り活躍中との事。河合先生の講演は先ず中山正暉終身名誉会長との邂逅、国旗掲揚と国歌を歌う会があるという驚き、そして少子高齢化問題に入ります。

「少子高齢化は、国家を揺るがす、静かなる有事」である。質疑を含め約40分、大変聴き応えのある講演でした。詳細は講談社現代新書「未来の年表・人口減少日本でこれから起きること」（価格760円）を是非書店で購入してお読みください。

今回河合先生には、榎秀郎元会長のたっての願いでご多用中のところ来会して頂きました。尚、南甲倶楽部で11月に講演予定です。

お誕生会は木村美牙男L、水津正臣L、新藤映和L、河野信之L、久保博L、石黒敏子Lの皆様でした。

中山正暉終身名誉会長のお楽しみ講和は、北朝鮮核開発・北方領土・9月3日戦勝記念日、中国はその4年後に出来た国であるのにも関わらず9月3日を戦勝記念日にしている無体な話、昭和25年朝鮮動乱時米トルーマン大統領のマッカーサー将軍、リッジウェー将軍交代の経緯、昔6000万人に抑える人口政策でハワイ、ブラジルへ多くの移民を送った話、御母堂中山マサ文部大臣時代の国家予算1兆円、現在は100兆円など時代の変遷ついての話。今日も中山先生のお話は森羅万象に亘りました。例会出席の方しか聞けませんので、是非参加しましょう。

中山正暉Lのウィ・サーブで宴が始まりました。鈴木誠元会長大学学員会情報は中大ブランディング戦略について、又水津正臣元会長からホームカミングデーに秋元康氏が来会するとの報告がありました。

理事会報告（井原俊二L）、テールツイスター発表（石村博義L・木村実牙男L）、出席率発表（河野信之L）、ファインドネーション発表（水津正臣L）、そして閉会のゴングは伊東敏第二副会長が鳴らされました。今日のテーマーは、前半は渋く素敵な声の伊藤尚L、後半は石黒敏子Lと増尾知恵Lの爽やかコンビでした。（出席者33名）

【L境 捷彦・記】

左：中山終身名誉会長のお楽しみ講話　右：北朝鮮核開発のお話で 世界の核弾頭数の資料

① 田口Lからお誕生日のライオン達へ、ロールケーキの贈呈！　②中大職員三浦康秀氏より河合雅司先生の紹介　③水津正臣Lからホームカミングデーに秋元康氏来会の報告　④木村Lと石村Lのテールツイスター発表　⑤⑥中央大学OBの河合雅司先生の講演

2017年9月13日（水）　第4リジョンガバナー公式訪問・合同例会報告
於 ホテルイースト21東京

▲ ガバナー公式訪問　合同例会

▲ 細川ガバナーから記念バッジを贈呈される櫻井L

今年度（2017～2018）の330－A地区細川孝雄ガバナーをお迎えして、第4リジョン合同例会が、東陽町ホテルイースト21東京で開催されました。近年、世界中のあらゆる場所で異常気象が散見されています。地球温暖化により北極の氷が解け出し、昨年インド・ニューデリーでは摂氏47°Cに達し、400人もの方が亡くなっています。このままの状態を放置すれば、2100年には東京の気温は4°Cに達するとも予想されます。細川ガバナーは「地球にやさしく・守ろう！未来の地球」をテーマに、運営方針を熱く語られました。

新入会員への記念品贈呈では白門LC櫻井俊宏Lが壇上で細川ガバナーから記念バッジを受け取りました。

合同例会は滞りなく進み、「また会う日まで」を大きな輪になり手を繋ぎ、声高らかに唄い閉会となりました。（参加者数167名、白門LC18名）

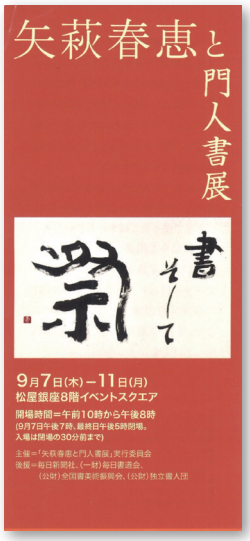
【L境 捷彦・記】

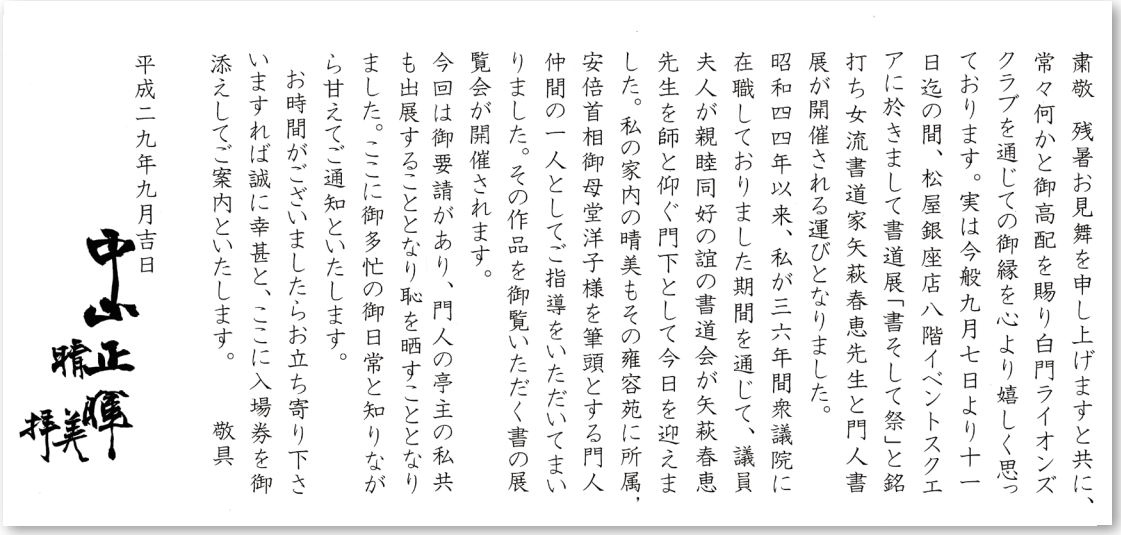
トピックス

中山終身名誉会長ご夫妻が作品を出展された書道展「書そして祭」

9月7日より11日までの間、松屋銀座店8階イベントスクエアに於いて、書道展「書そして祭」と銘打ち、女流書道家矢萩春恵先生と門人書展が開催され、中山晴美L、中山正暉終身名誉会長の作品が出展されました。

♥ご案内状とチケット





肅敬　残暑お見舞を申し上げますと共に、常々何かと御高配を賜り白門ライオンズクラブを通じての御縁を心より嬉しく思っております。実は今般九月七日より十一日迄の間、松屋銀座店八階イベントスクエアに於きまして書道展「書そして祭」と銘打ち女流書道家矢萩春恵先生と門人書展が開催される運びとなりました。

昭和四四年以来、私が三六年間衆議院に在職しておりました期間を通じて、議員夫人が親睦同好の誼の書道会が矢萩春恵先生を師と仰ぐ門下として今日を迎えました。私の家内の晴美もその雍容苑に所属、安倍首相御母堂洋子様を筆頭とする門人仲間の一人としてご指導をいただいてまいりました。その作品を御覧いただく書の展覧会が開催されます。

今回は御要請があり、門人の亭主の私共も出展することとなり恥を晒すこととなりました。ここに御多忙の御日常と知りながら甘えてご通知といたします。

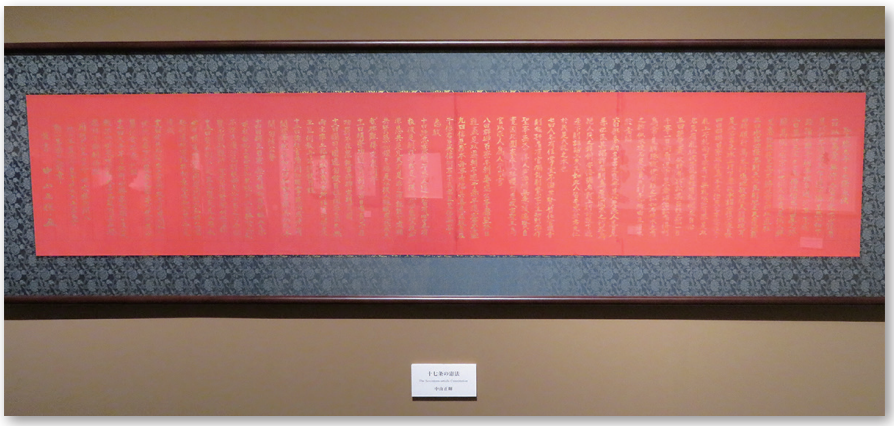
お時間がございましたらお立ち寄り下さいますれば誠に幸甚と、ここに入場券を御添えしてご案内といたします。　敬具

平成二九年九月吉日

中山正暉
晴美

♥ご夫妻の作品

▲ 光（中山晴美L書）



▲ 般若心経（中山終身名誉会長書）

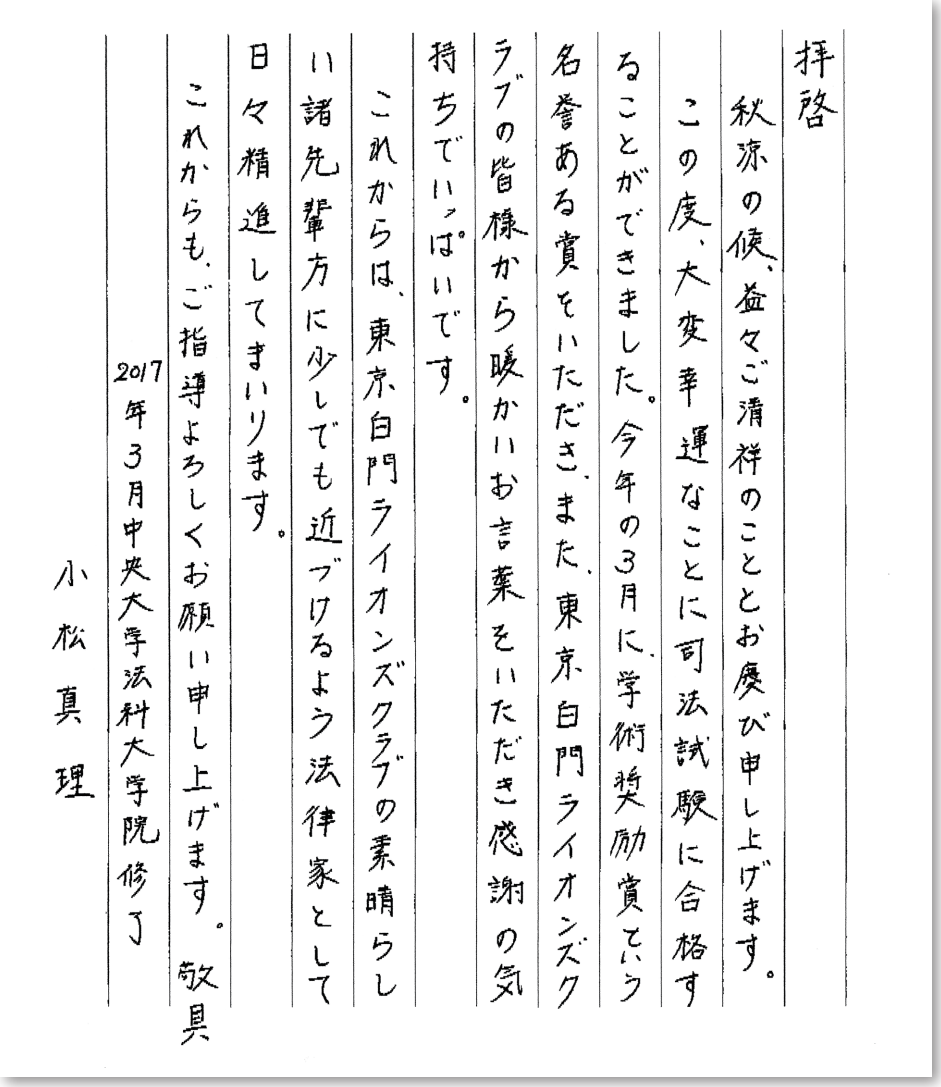
▲ 般若心経（中山終身名誉会長書）

トピックス

小松真理さんからの御礼状

第3回法科学院学術奨励賞を受賞された小松真理さんが、5月に実施された司法試験に合格されました。おめでとうございます。小松さんから御礼状が届きましたので掲載いたします。指導教授・藤原静雄先生による3月例会でのご紹介では、小松さんは国税局に採用され、すでに税理士、不動産鑑定士の資格を取得された大変な才媛の方との事、全くその通りですね。

3月に大学で開催された式典で廣澤会長（当時）から小松真理さんへ学術奨励賞授与式



拝啓

秋涼の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、大変幸運なことに司法試験に合格することができました。今年の3月に、学術奨励賞という名誉ある賞をいただき、また、東京白門ライオンズクラブの皆様から暖かいお言葉をいただき感謝の気持ちでいっぱいです。

これからは、東京白門ライオンズクラブの素晴らしい諸先輩方に少しでも近づけるよう法律家として日々精進してまいります。

これからも、ご指導よろしくお願い申し上げます。敬具

2017年3月中央大学法科大学院修了

小松 真理

▲ 小松真理さんからのお礼状

隣国と日本Ⅱ

終身名誉会長 中山　正暉

第二次世界大戦終戦を目睫にした1945年（昭和20年）8月。6日に広島、8日に長崎へ原爆が投下されました。ドイツのポツダム会議で終戦対応の連合国会議が開催されて、日本にはポツダム宣言が発せられました。その年の2月に開催されたヤルタ秘密協定は、当時の旧ソ連・スターリン首相、英国・チャーチル首相、米国・ルーズベルト大統領が主役でした。8月に開催されたポツダム会議では、戦争には勝利したが選挙に負けたチャーチルは代表としての資格を失いました。変わって英国労働党のアトリーが英国首相として出席、米国は4月12日に死亡したルーズベルト大統領に変わって、副大統領のトルーマンが出席。ヤルタとポツダムに一貫して出席したのは、ソ連スターリンのみでした。しかし、ずるいスターリンは、日本との中立条約有効期間を理由にポツダム宣言にサインをしていないのです。

そのスターリンの対応を頼りにした日本政府でしたが、東京の空襲を避けて大使がソ連に帰国し、マリク代理大使は箱根へ疎開していました。これは後日談になりますが、広田弘毅総理大臣経験者が「日露戦争は米国が仲介の労を取ったので、日米戦争はソ連がそうしてしかるべきではないか」と7回にわたって箱根に通い、終戦仲介斡旋の労を哀願したのです。

無常にも広島と長崎への原爆投下がありました。当時のソ連駐在日本大使の佐藤尚武はモロトフソ連外務次官へ会談を申し入れ、のらりくらりとはぐらかされていました。遂に長崎への原爆投下後、最初はクレムリン宮殿で午後8時に面談をとの通告がありました。その後、面談は5時に変更という通知があり、仲介の斡旋の期待と共に駆けつけた結果、「1時間後に日本を攻撃する」との宣戦布告がなされたのです。

佐藤日本大使は、「戦争と平和の間に1時間しかないのか」と反論したのですが、むなしい抵抗でしかありませんでした。8時を5時への変更は、満州国国境での開戦時刻が開戦後通告にならないための配慮で計算されたものでした。ヤルタ秘密協定で亡きルーズベルトが内々確約した領土確保の約束が反故にならないための画策だったのです。

ところが、着任早々の米国・トルーマンが発した占領行政命令に千島列島が入っていなかったことで激怒したスターリンは、極東軍のワレシフスキー司令官を通じて、カムチャツカのグネチコ司令官に千島列島確保のための軍事行動を命令したのです。

8月17日午後4時、陸軍参謀本部から全軍に対して戦闘停止の指令を出していたその日の夜中、午前2時に守占（シュムシュ）島へ、カムチャツカから砲撃が開始されました。停戦命令を受けた第91師団の堤不芙貴中将、水津満参謀も戸惑いがありましたが、杉野・佐野旅団長も格納していた大砲を引き出し、反撃してカムチャツカの砲台を沈黙させたと語り継がれています。

ソ連軍始まって以来初の守占島への上陸作戦が敢行された戦闘です。慣れていない作戦のために、完全軍装をしたソ連軍兵士が先を争って水深2メートル近くの海へ飛び込み、2,000人が溺死したとの話も伝わっています。

遂に千島列島全島が制圧されたのが9月3日。8月15日のポツダム宣言受諾から半月が経過していました。米ソの終戦時のどさくさまぎれの確執。それが今日の北方領土問題の悲劇です。

1855年、日露修好条約がプチャーチンと結ばれました。約束は択捉・国後までが日本領土。しかし、1875年、千島樺太交換条約で全千島が日本領土となったのです。

1853年にペリー提督が4隻の黒船を率いて来航して開国した日本は、隣国の朝鮮半島の開国に手を貸そうとしました。徳川幕府は264年の治政の間に、13回の通信使の来訪を受けています。現在も常用されている「通信」なる言葉の語源は「誼しみを重ね　信義　相通ず」から名付けられています。朝鮮とは日本が鎖国をしていた時代もかなりの交流がありました。しかし、江華島事件が起こりました。

1875年（明治8年）9月20日、朝鮮半島の西海岸で水路測量の名目で示威活動中の日本艦『雲揚』の短艇がカンファ（江華）島付近でチョウォチン（草芝鎮）砲台から攻撃され、それに応戦した事件が起こりました。これを機に日本は朝鮮に開国を強要して、翌年黒田清隆、井上馨を全権として日朝修好条規（江華島条約）を結んだのです。

閔氏政権の開国政策による外国資本の進出、そして重税政策、両班たちの闇での賄賂や不正収奪の横行は、壬午事変や甲申政変と相次ぐ政変につながります。そして1894年、農民の蜂起が起きました。東学党の二代目教祖となった崔時亨が武力蜂起し、甲午農民戦争に発展したのです。反乱軍に全保琫準という知将を得て全州一帯を支配下にしたことで、驚いた閔氏政権は、清国に援軍を要請しましたが、天津条約を根拠に日清が互いに朝鮮へ出兵しました。

日本は公使館警備と在留邦人保護が派兵の目的だったのですが、漢城近郊に布陣して、清国軍と対峙することになりました。慌てた閔氏は農民と妥協して全州和約をしたために、農民側のお目付け役「執綱所」が出来て全羅道に農民権力による自治が確立しました。

反乱が収束し、朝鮮は日清両軍の撤兵を申し入れたのですが、両国は受け入れず対峙が続きました。日本は清に対し、朝鮮の独立援助

と内政改革を共同で行おうと提案しました。イギリスも調停案を清へ出したのですが、清は日本のみの撤兵を主張して拒否したのです。

日本は清・朝間の条約破棄（宗主・藩属関係の解消）について3日以内の回答を申し入れ、朝鮮が清軍を排除できないのであれば日本が駆逐する意図をあからさまにしていました。朝鮮政府は自主改革・日清両軍の撤兵を回答。国内では閔氏政権を追放して、大院君がクーデターを起こし、金弘集政権を誕生させたのです。金政権は日本に牙山の清軍掃討を依頼しました。それが豊島沖海戦、成歓の戦いが始まり。そして1894年8月1日、日清両国が宣戦布告して日清戦争が勃発しました。

私が衆議院に初当選したのは、1969年（昭和44年）のことでした。内閣総理大臣は佐藤栄作。お隣の韓国の大統領は朴正熙でした。日本の政党の中には、韓国を認めない党もあり、謂ゆる自由主義陣営と、一方の共産主義・社会主義を信奉する陣営との対立がありました。

1910年（明治43年）から36年間日本の施政権のもとにあった朝鮮半島への戦後対応は、世界が10年後に知る事になる、最近ポーランドから強引に武力制圧してロシア領となったクリミヤ半島のヤルタでの秘密協定で決定されていたのです。

ポツダム宣言を受諾して日本の占領行政が実施に移されようとしている方針の占領行政命令が日本の外務大臣東郷重徳に訓令として発せられました。38度線以北の日本軍は旧ソ連軍に、38度線以南は米軍に武装解除を実施せよとの命令だったのです。朝鮮半島分断の悲劇の始まりでした。

金日成、本名は金聖柱。北朝鮮の主席に就任したこの人は、旧満州の朝鮮族3,000人を率いて、ソ連がナチスドイツと死闘を繰り返していたレニングラード興亡戦に参加。奮闘した功績をスターリンに評価されたことが北朝鮮の指導者への道へ繋がったと聞いています。金聖柱が金日成と変名した理由は、「金が日本で成功するから」。また、二代目の金正日は、当初の金正一が金正日になったものです。韓国語の発音では、一も日も「イル」と同一であることから、「金が日本で正義を行う」との意で変名されたとの話が伝わっています。

朝鮮半島を一気に共産主義化へと意図して、突如軍事侵攻をした金日成は、ソ連が欠席した国連の場で米国主導で16ヶ国からなる国連軍を組織し、国連決議195号で朝鮮半島には韓国のみ存在するとし、後の1965年（昭和40年）に締結された日韓基本条約第3条にそのまま記載されているのです。国連軍の筆頭としては、日本占領軍最高司令官が派遣されました。

一進一退の戦闘に突如、義勇軍を名目に毛沢東の率いる中国軍が参戦した状況を懸念した国連軍司令官マッカーサーは、朝鮮動乱終結のための満州への原爆投下と、台湾へ駆逐された蒋介石麾下の台湾軍の朝鮮動乱投入を提言しました。その書簡を米国議会マーチン下院共和党院内総務が公表したことで、世界戦争への発展を懸念したトルーマン大統領は、マッカーサーを解任。後任にリッジウェイ中将を任命しました。

1950年（昭和25年）6月25日開戦、1953年7月には休戦協定。米国・ハリソン中将、北朝鮮・共産軍南日大将が署名しましたが、李承晩韓国大統領は休戦に反対して、遂に署名をしませんでした。現在38度線を挟んで2,000mの非武装地帯DMZ（demilitarized zone）を設け、一触即発の世界一危険な地域を形成しています。

前誌に地下トンネル視察の議員仲間との写真が掲載されました。38度線に当時地下トンネルの存在が話題になった頃のものです。私以外、皆この世を去りました。

会員情報

支援会員の安田征史Lが、2017年８月に、不慮の事故で逝去されました。
謹んでお悔やみ申し上げます。

編集後記

田口会長例会便り１号は榎元大学理事の大学改革を思う激白、中山終身名誉会長のタイムリーなお話と盛り沢山な内容となりました。メンバーの皆さんのご意見や寄稿文など、どんどんお寄せ下さい。

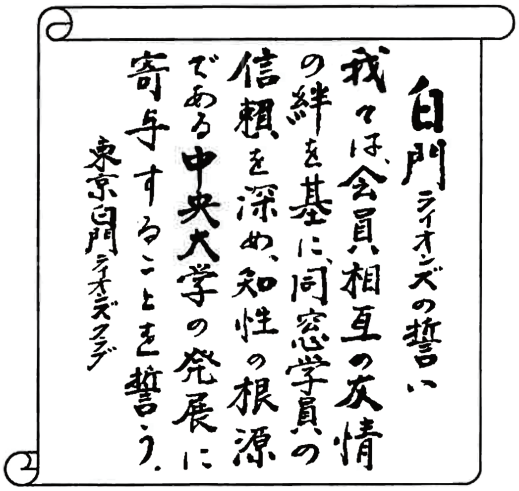
【L境 捷彦・記】

Quarterly of Lions　2017.7-8-9 No.9

発行日　2017 年 10 月 31 日
発行人　田口彰紀
編集／総務・広報委員会　境 捷彦　大越 武雄　久保 博
発行所　東京白門ライオンズクラブ
事務局　八王子市南大沢 3-14-4-304　TEL/FAX.042-676-4147
制作協力　株式会社 ノラ・コミュニケーションズ

白門ライオンズ会報　揮毫　中山 正暉L

2017.7 ～ 2018.6



クラブスローガン

白門の絆を奉仕で結ぶ母校愛

東京白門ライオンズクラブ

白門ライオンズクラブ

http://hakumon-lions.org